

愛知県議会議員

— 自民党1期 —

神谷 和利



名古屋市緑区徳重の住宅街の一角にかなり目立つ木造二階建ての施設があります。今年七月に竣工したばかりの学童保育クラブで、九五%愛知県産材を用いた板倉構法と呼ばれる日本の伝統建築法で

建てられています。

板倉構法は柱や梁などの構造の他に、床や壁や屋根にスギの厚板を用いることで地震や火災に強く、日本の風土に適しています。壁材に横板を使用するため壁塗りの必要がなくそ

板倉構法で地元木材を活かそう

昭和36年1月2日生まれ。豊田市柿本町3-34。愛知県議会農林水産委員会副委員長。同人会くり・福祉特別委員会。自民党愛知県第11選挙区副支部長。元豊田市議会議員。愛知県森林協会理事。豊田市少林寺拳法協会会長。ボーイスカウト豊田地区副協議会長。

したとのこと。名古屋市の学童保育は独特で、多くは保護者が運営し保育料の徴収、指導員の雇用、施設の確保も担っています。施設を建てる土地は借地が多く、必然的に撤去が容易なプレハ

ブ建築となり、プレハブ平屋なら建築費は名古屋市が負担してくれます。しかしプレハブの居住環境は厳しく、夏はエアコンが効かず冬は底冷え、防音性も乏しく子ども達の声が反響します。しかも耐

用年数は二十年しかありません。学童保育に通う子ども達は学校より長い時間をクラブで過ごします。子ども達にとって良好な環境と、修理改築が容易で移築もでき、長期的には経済性

のまま化粧材となるのが特徴です。この横板は落とし板壁と呼ばれ、製材から建築まで究極の都市内循環

大量の板材を使用します。この施設も一般住宅6棟分の材木を使用

もある板倉構法に運営委員全員一致で建築が実現したとのこと。板倉構法で使われる落とし板は厚さ三〇ミリ、幅一三五ミリの杉材。これは豊田市の中核製材工場が得意とする製材サイズです。これを合板(集積材)の材料として出荷するより、そのまま建築材として供給した方が高価値です。つまり板倉構法は、豊田市産の木材を豊田市で製材し、地元の仕事で建築するという川上から川下まで一気通貫、究極の都市内循環といえるのではないのでしょうか。